



おいしさのみなもと

**FEED ONE**

# 2023年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2022年11月8日

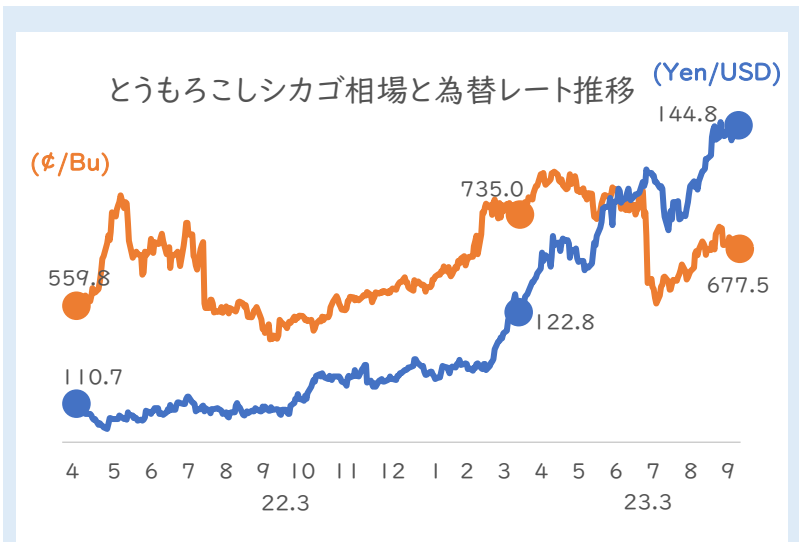
フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード:2060

## 1. 輸入原料における影響

(状況) 主原料のとうもろこし輸入価格が高騰し、飼料販売価格も値上げ  
 原材料高騰により、配合飼料価格安定制度 積立金が増額  
 ※詳細は、販管費詳細にて説明

(影響) 売上総利益の減少、販管費の増加 → マイナス影響は **大**

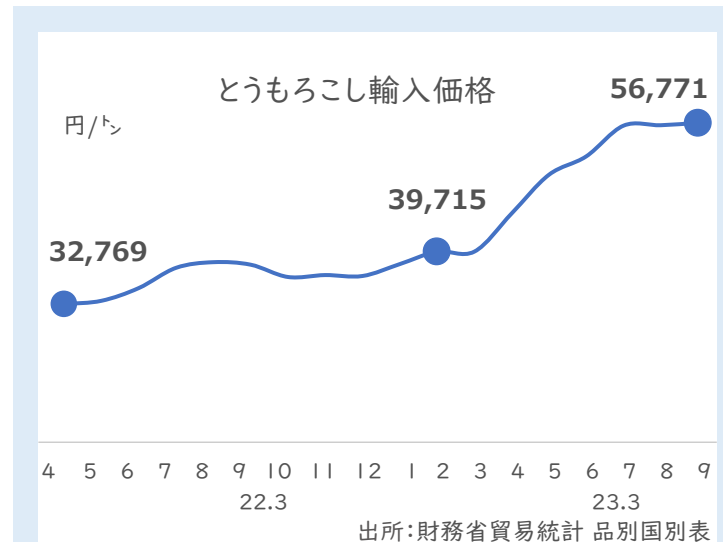


→主原料 とうもろこしシカゴ相場高騰  
 →為替レート 3月以降に円安が加速

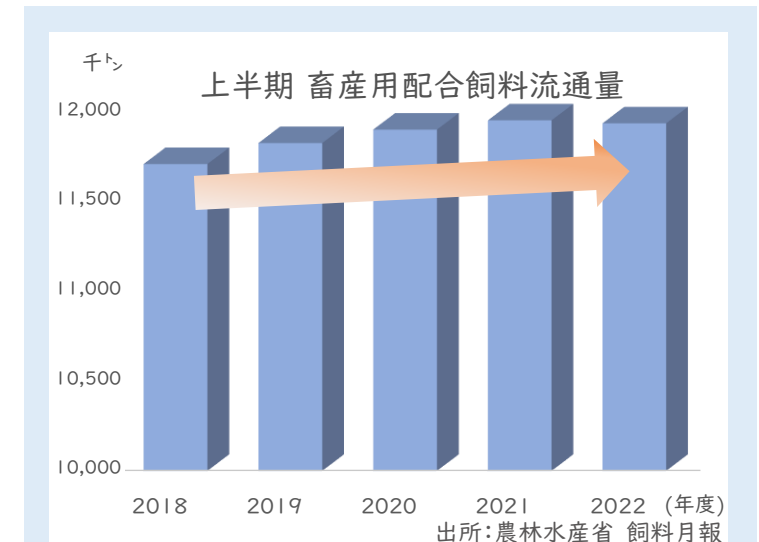
## 2. 新型コロナ・家畜伝染病における影響

(状況) 外食産業が回復傾向で、畜産物全般の消費は前年より好調  
 豚熱はワクチン接種で鎮静化も、限定的に発生し回復に遅れ  
 鳥インフルエンザはゆるやかに回復、直近で感染拡大の兆し

(影響) 配合飼料流通量は概ね横ばいで推移も、当社販売数量は微増  
 → マイナス影響は **小**



→主原料 とうもろこし輸入価格(4-9月)は  
前年同期比 47.4% 上昇



→畜産用配合飼料流通量は  
概ね横ばいで推移

# 2023年3月期 上半期 決算概要



FEED ONE

(百万円,%)

	2022.3期 上半期	2023.3期 上半期		
			増減額	前年同期比
売上高	117,858	144,890	+ 27,031	+ 22.9
売上原価	105,656	134,386	+ 28,729	+ 27.2
売上総利益	12,202	10,504	▲ 1,698	▲ 13.9
販管費	8,797	10,603	+ 1,806	+ 20.5
営業利益	3,404	▲ 99	▲ 3,504	—
経常利益	3,914	103	▲ 3,811	▲ 97.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,829	▲ 29	▲ 2,859	—

## 前年同期比

- 売上高 : 飼料事業で畜産飼料の販売価格の上昇により増収
- 売上総利益 : 原材料費の増加により大幅減益
- 営業利益・経常利益 : 配合飼料価格安定制度の積立金(販管費)増加により減益
- 当期純利益 : 固定資産除却損・減損損失等により赤字転落

# 2023年3月期 上半期 セグメントの状況



FEED ONE

(百万円, %)

		2022.3期 上半期	2023.3期 上半期	
			増減額	前年同期比
飼料事業	売上高	97,641	124,241	+ 26,600 + 27.2
	セグメント利益	4,656	1,175	▲ 3,481 ▲ 74.8
食品事業	売上高	19,005	19,466	+ 461 + 2.4
	セグメント利益	▲ 164	▲ 201	▲ 36 —
その他	売上高	1,212	1,181	▲ 31 ▲ 2.6
	セグメント利益	138	114	▲ 23 ▲ 16.9

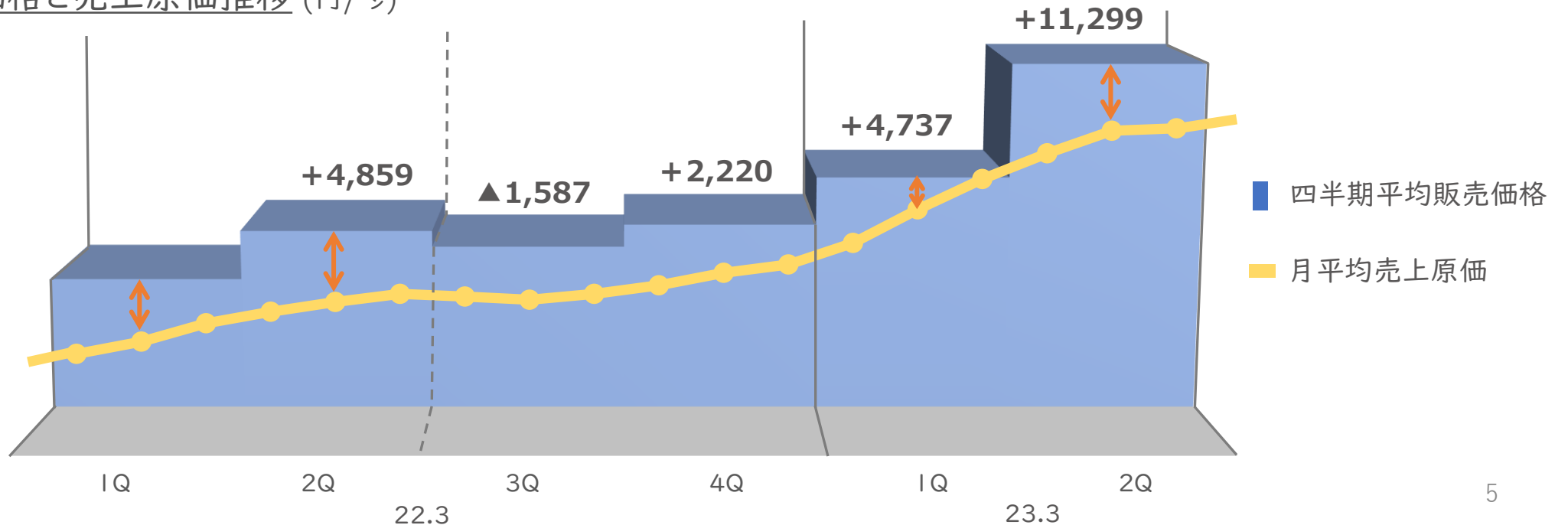
販売数量	2022.3期上半期	2023.3期上半期		
		前年同期比	コメント	
畜産飼料	170.7万ト	173.6万ト	+ 1.7%	採卵鶏用+4%、ブロイラー用+6%、豚用▲2%、牛用+3%
水産飼料	4.8万ト	5.7万ト	+ 18.8%	海水魚用+23%、淡水魚用▲2%

# 販売価格と売上原価推移① 畜産飼料

第1四半期は値上げ実施も、売上原価の上昇額が大きく上回り、売上総利益が減少  
第2四半期は売上原価の更なる上昇も、価格転嫁が進み、売上総利益が改善

- ▶ 販売価格は原材料相場の変動に準じて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を占める輸入とうもろこし相場が前年同期を大きく上回っている

販売価格と売上原価推移 (円/トン)

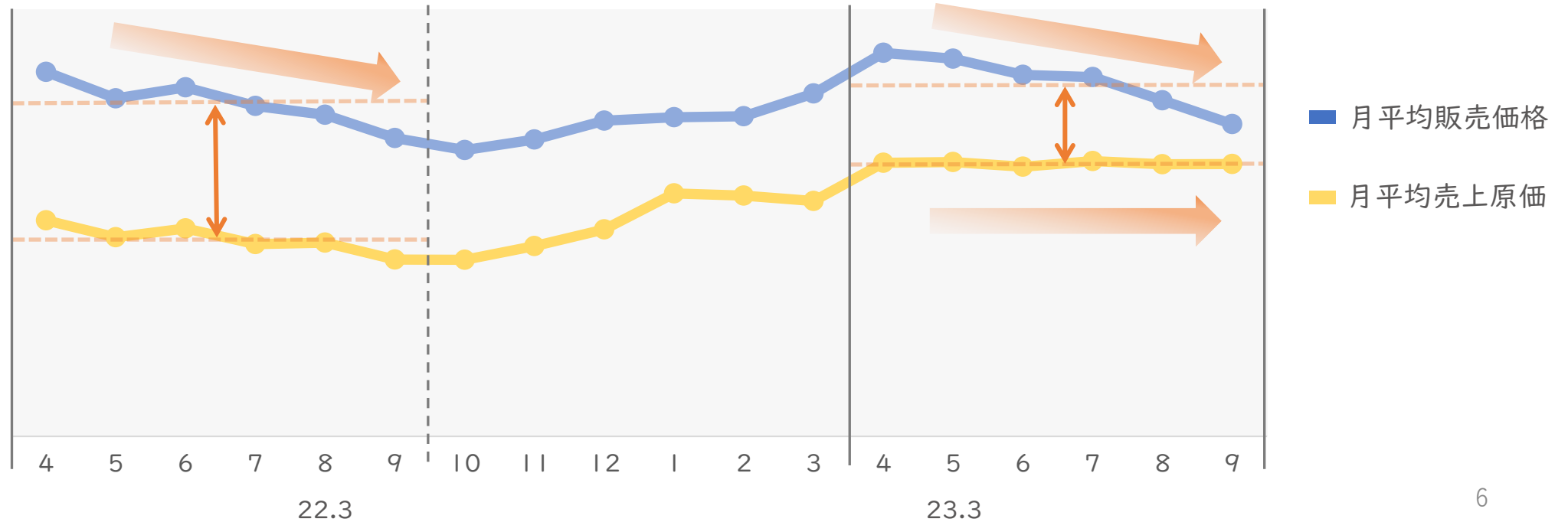


# 販売価格と売上原価推移② 水産飼料

販売価格は例年通り低下も、売上原価は横ばいで推移し、売上総利益が減少

- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原材料の4割強を魚粉が占める
- ▶ 定期的な販売価格の改定は無く、原材料相場の大きな変動等を勘案して、改定を行う

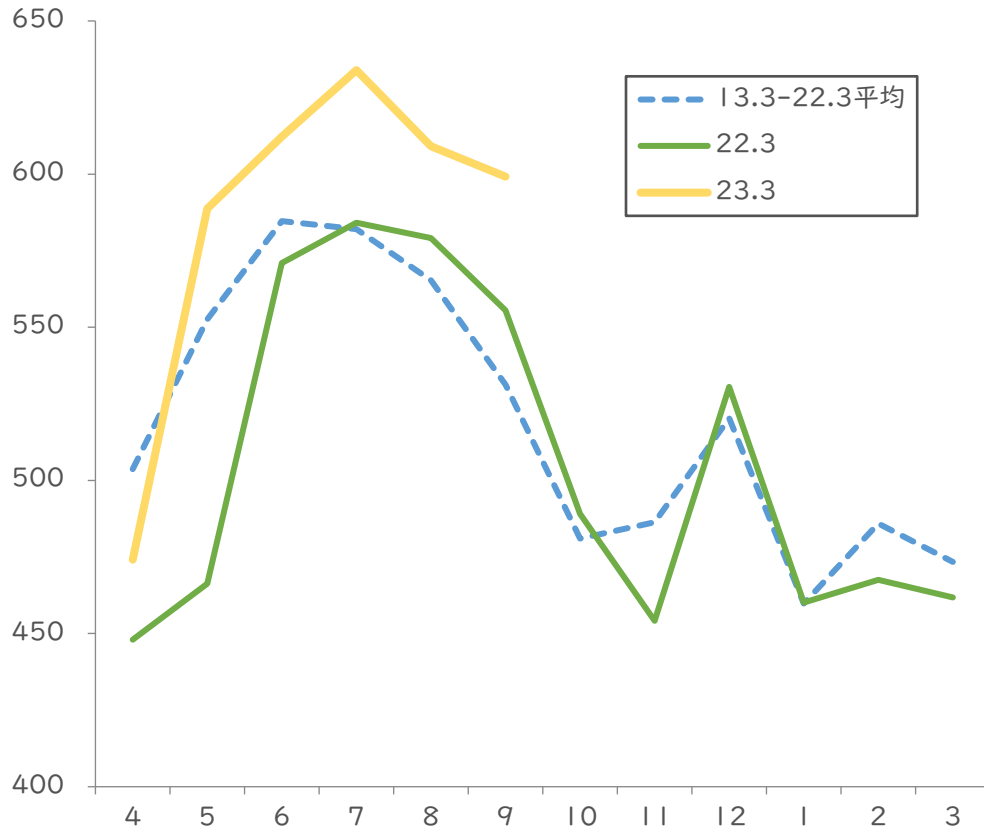
販売価格と売上原価推移 (円/トン)



# 畜産物相場の状況 食品事業

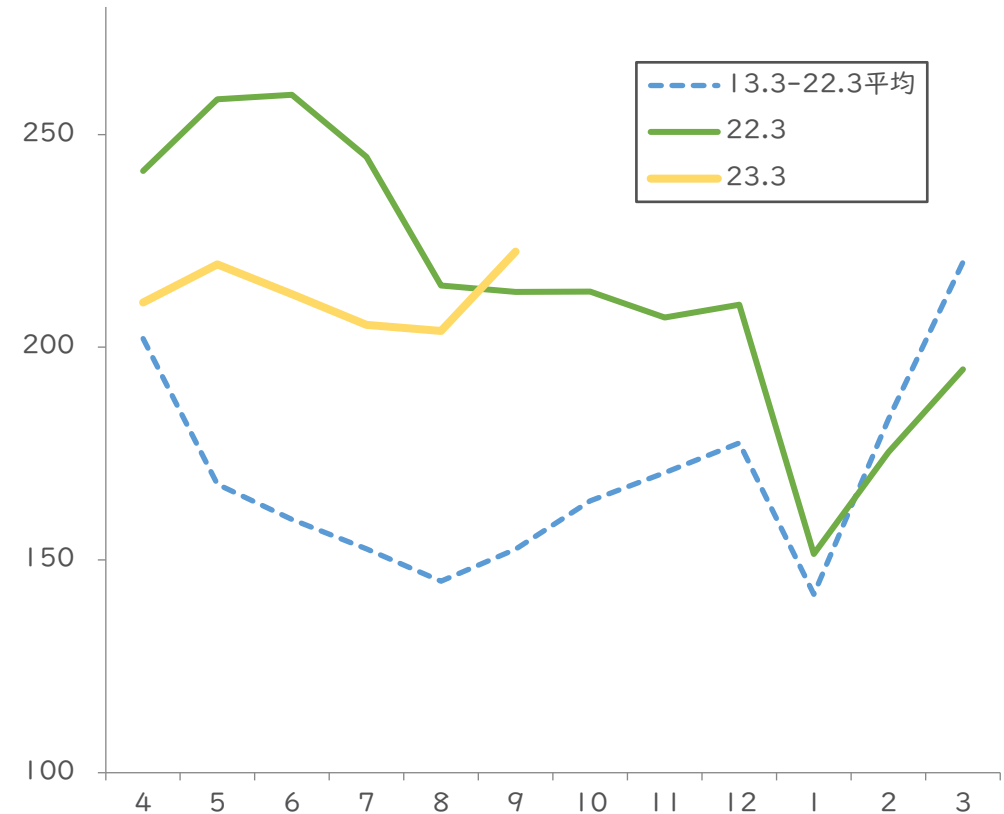
豚枝肉相場は前年を上回り収益が悪化、鶏卵相場は前年を下回り収益改善

豚枝肉卸売価格(3市場・上物) (円/kg・税抜)



(出所:農林水産省「食肉流通統計」)

鶏卵卸売価格(全農:東京M) (円/kg・税抜)



(出所:JA全農たまご(株)調べ)

# 販管費 と 配合飼料価格安定制度

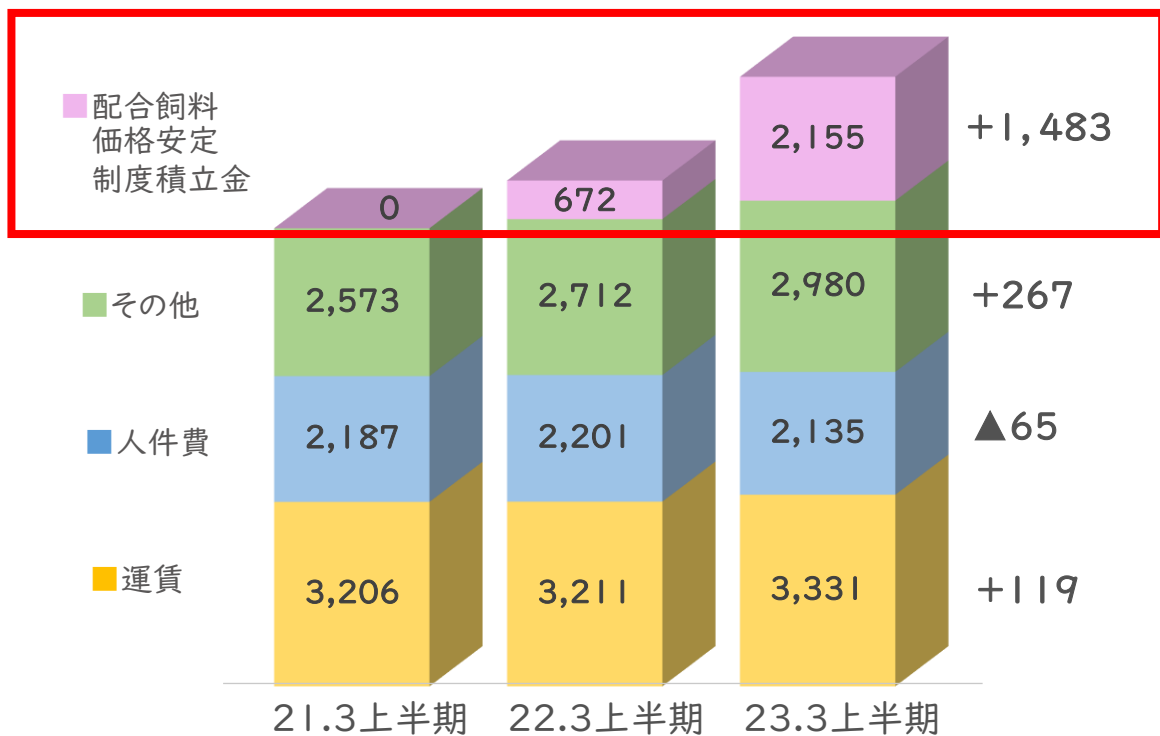


FEED ONE

## 販管費

- ▶ 配合飼料価格安定制度の積立金増額
- ▶ その他の貸倒引当金繰入額、活動費等により増加

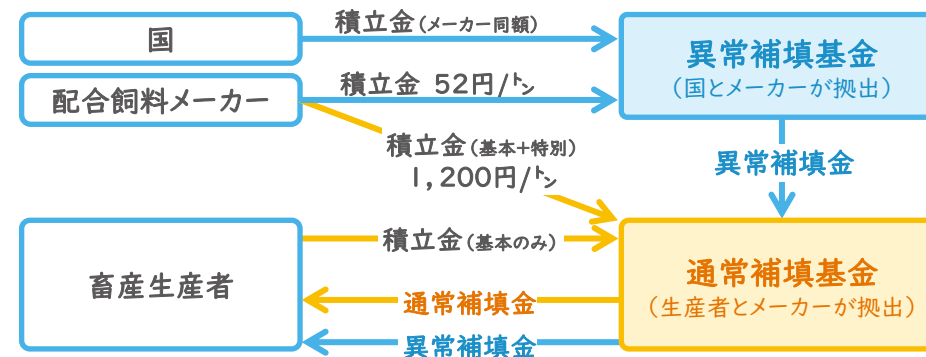
(百万円) (前年同期差)



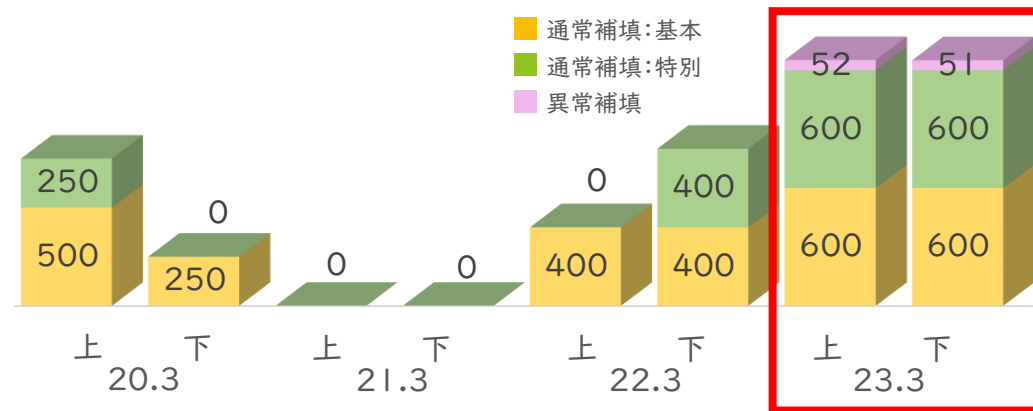
## 配合飼料価格安定制度

- ▶ 飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 補填金発動により22.3期から積立金が再開、23.3期は単価増額、更に異常補填積立金が発生

制度の仕組み(例:2023年3月期上期)



積立金推移(配合飼料メーカー)





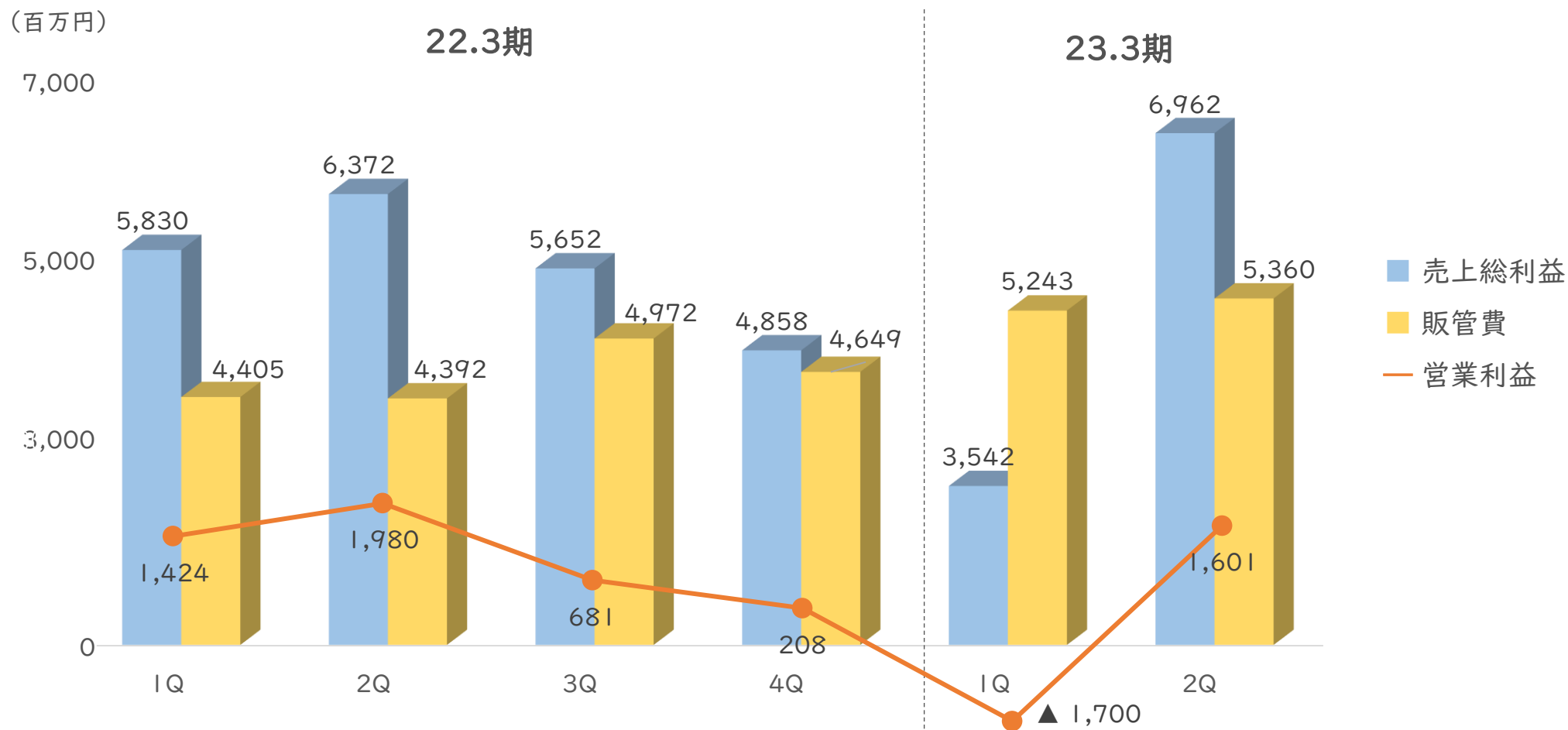
# 四半期ベース 業績推移



FEED ONE

第1四半期は、売上総利益が大幅減少、営業利益がマイナスに

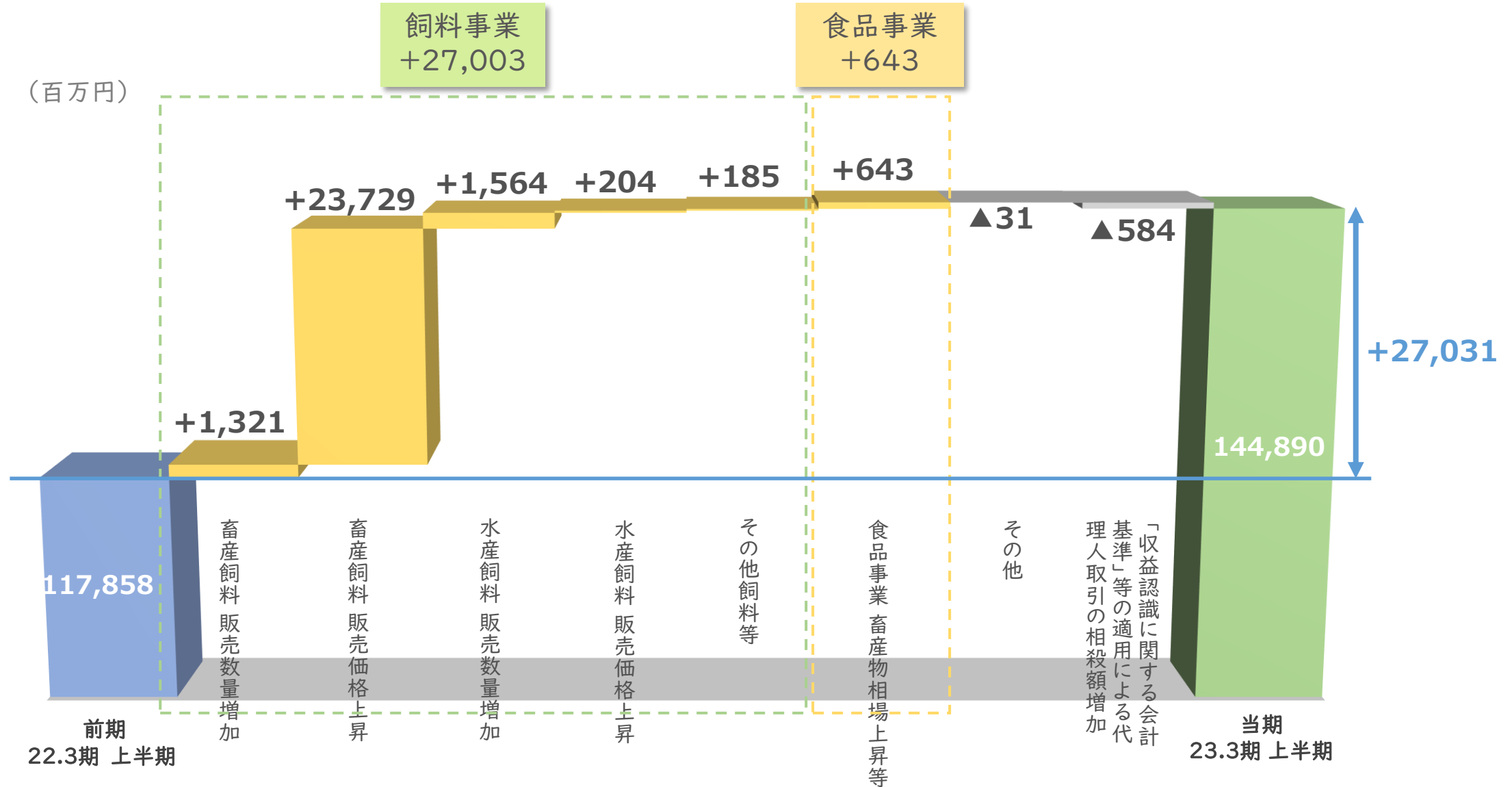
第2四半期は、畜産飼料の価格転嫁が進み、売上総利益が大きく増加、営業利益はプラスに



# 売上高増減要因



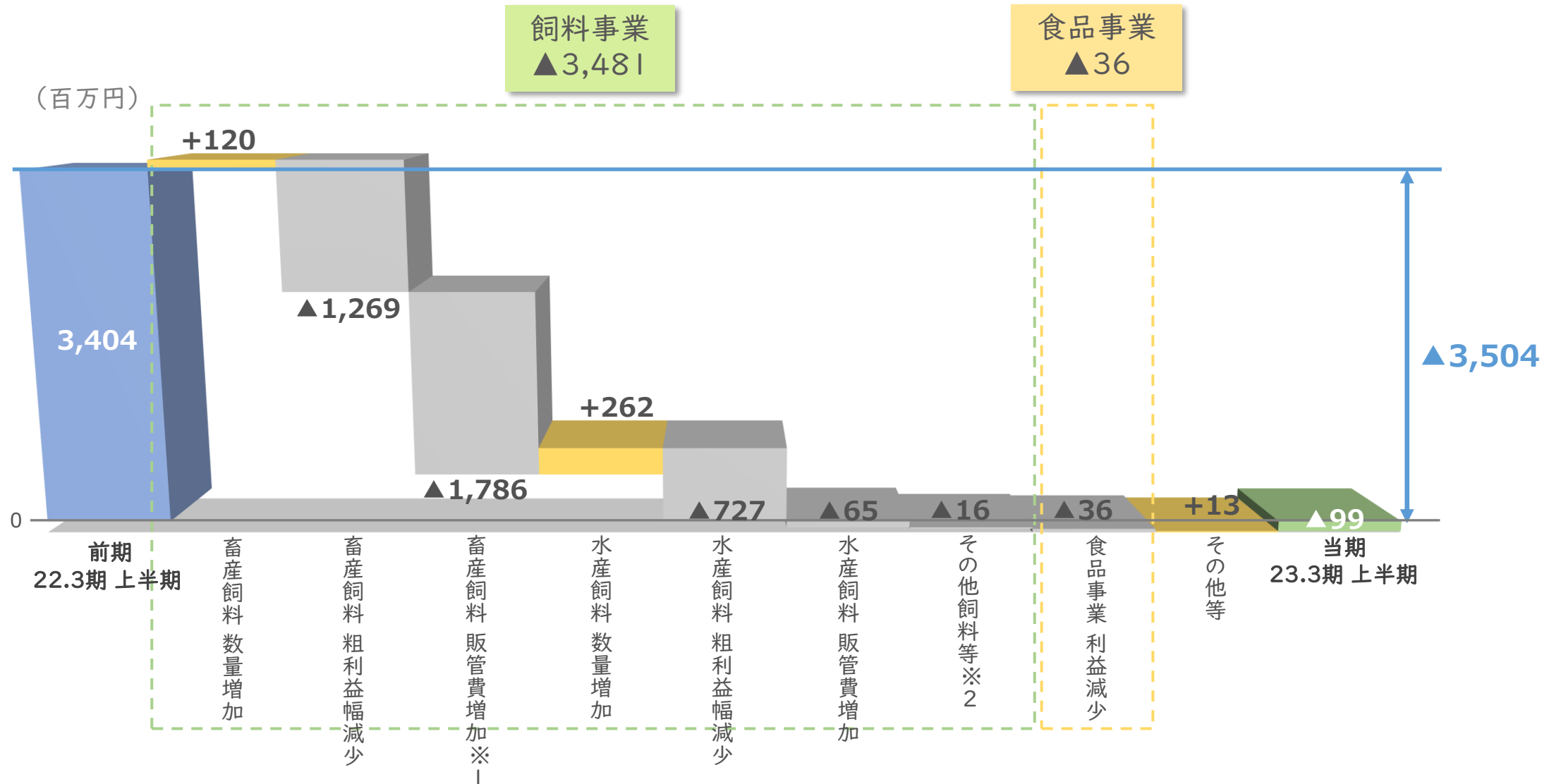
FEED ONE



# 営業利益 増減要因



FEED ONE



※1 配合飼料価格安定制度の積立金増加▲1,483百万円 ※2 知多工場一部閉鎖による割増償却▲22百万円



# 2023年3月期 業績予想

---

# 2023年3月期 業績予想

(百万円, %)

	2022.3期	2023.3期		
		予想	前期比	期初予想
売上高	243,202	305,000	+ 25.4	301,000
営業利益	4,293	800	▲ 81.4	4,100
経常利益	5,067	1,000	▲ 80.3	4,000
親会社株主に帰属する当期純利益	3,659	500	▲ 86.3	2,500

販売数量	2022.3期	2023.3期			
		予想	前期比	コメント	期初予想
畜産飼料	352.1万ト	358.6万ト	+1.8%	採卵鶏用+1%、ブロイラー用+5%、豚用+1%、牛用+1%	358.6万ト
水産飼料	9.3万ト	10.4万ト	+11.8%	海水魚用+13%、淡水魚用+12%	10.4万ト

- 売上高 : 飼料事業で畜産飼料の販売価格の上昇により上方修正
- 営業利益 : 原材料費の増加により下方修正
- 販売数量 : 事業計画通りに進捗中、変更なし

## 1. 下半期の事業環境

### ● 原材料価格

為替レートにおいては円安の継続  
円安の進行により原材料相場が高騰

### ● 販売価格

原材料高騰を受け高止まりの中で、価格転嫁は厳しい状況

### ● 配合飼料価格安定制度積立金

期初予想通り1,251円/トン ※前期下半期800円/トン

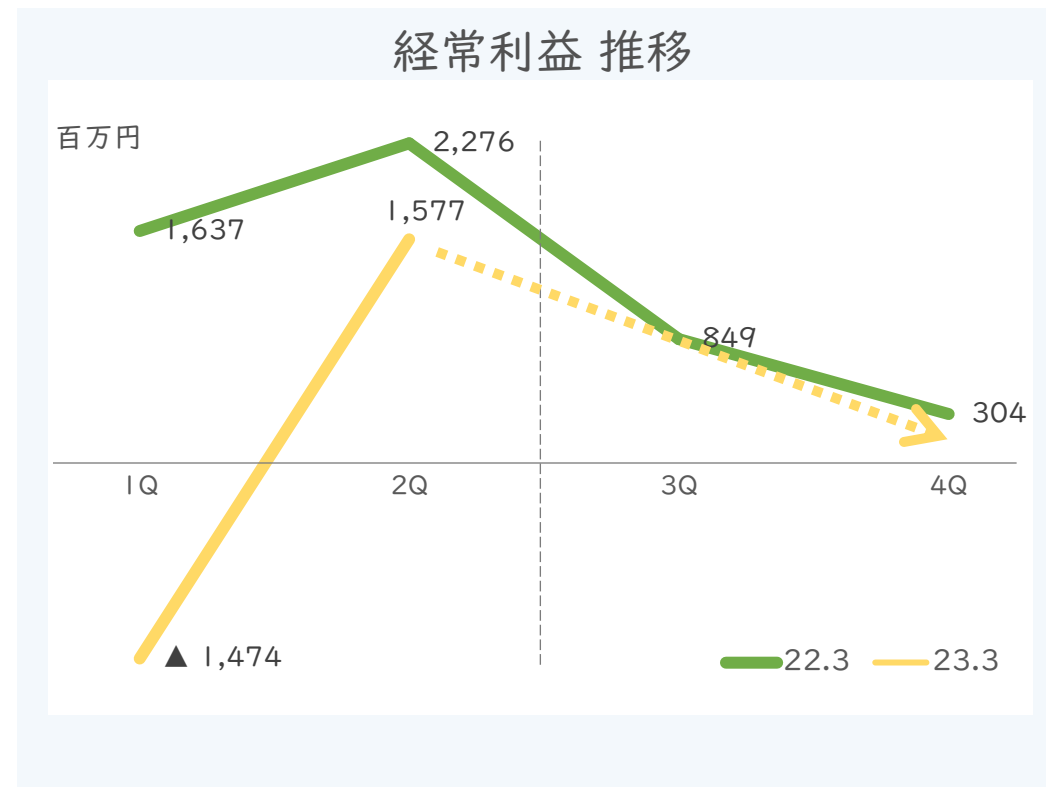
## 2. 注力課題 持続的な成長に向けた収益力の強化

### ● 販売数量拡大と設備投資

当社の高い技術力により計画通り前期比2.1%増加見込み  
販売数量増加に 대응する製造基盤の強化

### ● 収益力強化

高付加価値製品の拡販  
競争力ある原料買い付け





おいしさのみなもと

# FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、  
その情報の正確性を保証するものではありません。

また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛  
([ir@feed-one.co.jp](mailto:ir@feed-one.co.jp))にご連絡ください。